

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
					達成値	達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	○基礎学力の定着と個別最適な学びの充実 ○家庭学習の習慣化 ○ICTを活用した学習活動 ○学習分析を基にした授業改善と探究的な学習(PBL)の充実	○ドリル学習や個別指導による基礎学力の定着	○標準学力調査(NRT)	全国平均以上	50.4%	100.8%	B	・NRT平均偏差値は1年50.9%、2年生51.3%、3年生48.9%で、教科では2年・3年数学、3年国語、理科、英語が全国平均を下回っている。 ・家庭学習の数値は、昨年度2月の63.7%から約6%上昇している。 ・90%を超える生徒がICTが学習に役に立つと捉えている。	・NRTの結果を受け、各教科だけでなく、全校で行う取組を、現在研究部を中心に検討している。10月以降、その視点を取り入れた授業づくりを全校で行っていく。 ・上記の取組に対し、家庭学習と接続したり、ICTを効果的に活用したり等、各教科で工夫していき、より良い方法に関して、教科間、学年間で共有しながら、授業の質を向上させる。	○			新型コロナ禍の中、大変前向きな方策がうかがえ、NRTの結果も全国平均程度であり評価できる。 家庭でもPC・タブレットを使った生活が多くなっているため、長文を読んだり、他の生徒とディスカッションをする授業をしてもらいたい。
			○家庭学習の習慣化	○家庭学習の習慣化	80%以上	69.8%	87.3%							
			○ICTを活用した学習活動	○ICT活用の意識調査	90%以上	92.8%	103.1%	C	・研究授業は計画通り実施できている。 ・授業満足度は昨年度2月の89.3%から4.5%上昇している。 ・「自分の考えをもって友達に伝えようとしている」項目は昨年度2月の69.5%から8%下回っている。	・管理職からの指導や「確かな学力」での取組を基に、日々の授業改善を行っている。 ・わかる授業を継続していくと共に、夏の研修で学んだ思考ツールの活用促進を通して、自分の考えを伝え合う力の育成を図っていく。	○			
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○研究授業1人年1回以上(1単元開発)	1人1回以上	現在15名実施	71.4%							
		○思考力・判断力・表現力の育成	○授業がよくわかる	95%以上	93.8%	98.7%								
		○わかりやすく説明や発表をしている	○わかりやすく説明や発表をしている	80%以上	61.3%	76.6%								
豊かな心・健やかな体	人に愛される生徒の育成	○積極的な生徒指導の推進 ○道徳教育の充実 ○異年齢集団での協働活動の推進	○生活四訓の徹底	○自分からあいさつ	80%以上	64.2%	80.3%	C	・挨拶の数値は、昨年度2月の73%から約9%低下している。 ・昨年度10月のいじめ件数は1、暴力行為件数は5であることから大きく減少している。これらに関わった生徒も多くが落ち着いた生活ができている。 ・不登校は、昨年度10月の10人と依然として少なくない。ただし、各担任の取組により、欠席日数が30日以上の生徒も昨年より改善されているケースもある。	・挨拶に関しては、生徒指導委員会や経営会議で、具体的な取組を考え、できるだけ早くにそれを実施していく。 ・学年朝会での生徒指導の話や、定期的な身なり点検等、今まで取り組んでいることを継続する。 ・引き続き、SCやSSW、関係機関と連携しながら、取組を継続する。	○			生徒の姿勢、服装・頭髪等大変感じが良く、また掲示物の字も丁寧に書かれている。これは学校の雰囲気づくりが上手くされている成果である。 日本の生徒は他国と比べ自己肯定感が低いと言われている。自分を大切にすることを教育を進めてもらいたい。
			○デイリーの取組やいじめアンケートの実施	○「いじめ」「暴力行為」の件数	0件	いじめ0件 暴力行為1件	0%							
			○学校ふれあい教室の経営と教育相談の充実	○不登校の人数	15人以下	現在11人下	100%	B	・道徳の授業満足度は昨年度2月の88.4%から5.7%低下している。 ・道徳担当者を中心に参観授業等、授業改善に向けた教材研究を行っている。	・担任以外も道徳の授業を行う等、できるだけ多くの先生が道徳の授業を行う。 ・担任だけが授業を考えるのではなく、各学年で教材研究ができる風土を大切にしている。	○			
			○道徳教育の充実	○道徳の授業満足度	90%以上	82.7%	91.9%							
		○異年齢集団での協働活動の推進	○道徳の授業改善	80%以上	80.0%	100%								
		○生徒会活動や部活動の活性化	○自己肯定感	80%以上	76.5%	95.6%	B	・「自分にはいいところがある」項目は、昨年度2月の79.6%から約3%低下している。 ・「部活動に積極的に参加し、楽しく活動することができている」項目は、昨年度2月の91.7%から1.4%上昇している。	・学校行事等が例年通り実施できない状況であるが、生徒が活躍できる場を生徒会活動を中心に設けている。	○				
		○部活動満足度	90%以上	93.1%	103.4%									
信頼される学校	郷土に貢献できる生徒の育成	○地域貢献活動の推進 ○保護者への広報活動 ○業務改善の推進	○地域と連携した防災学習の推進	○社会や地域への貢献	90%以上	91.5%	101.7%	B	・「社会や地域の役に立っている」項目は、昨年度2月の81.1%から約10%上昇している。 ・「ボランティア活動に参加して良かった」項目は、昨年度2月の92.6%から6%低下している。	・地域のボランティア活動が例年通り実施できない状況であるが、今後可能になった時、今まで増ってきた取組を再度始めていく。	○			コロナの影響により、現在は難しい面もあるのだが、地域での多世代とのふれ合いの場がもっと増えたら良いと考える。 勤務時間の管理については大変難しい面もあるとは思いますが、改善しようとする努力は見て取れる。学校の様子を知らせる通信など、内容や量を工夫して、業務改善とのバランスが必要である。
			○地域行事やボランティア活動への参加	○ボランティア活動参加	100%以上	86.6%	86.6%							
			○HPへのアップや通信等で学校の様子の広報活動	○通信等の発行(月1以上)	90%以上	学校だよりは現在5年 学年通信は 今年度1月以上の割合で 出している	75.0%	C	・定期的に通信等で学校の様子を伝えている。 ・定期的にHPを更新し、学校の様子を伝えている。	・通信等の月1以上の発行やHPの更新を通して、学校の様子を伝えることを継続するとともに、保護者等に来校しただけでない参観日等の様子については、HPに掲載し情報発信していく。	○			
			○保護者への広報活動	○業務改善の推進	90%以上	88.9%	98.8%							
		○1人1業務改善の取組	○業務改善の意識調査	90%以上	88.9%	98.8%	B	・業務改善に対する意識は非常に高まっており、全体の約9割の職員が取組を行っている。 ・勤務時間外の在籍時間は6月でのべ105名の職員が60時間以内となっているが、45名は60時間以上であり、更に取組を進める必要がある。	・勤務時間外の在籍時間を更に減少させるために、今一度業務を見直し、個人に負担がかかりすぎないように取組を進めるとともに、定時退校日等での声掛けも継続していく。	○				
		○週に1日5時間授業の日と定時退校日の設定	○勤務時間外の在籍時間月60時間以内	85%以上	70.0%	82.4%								

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。